

1 単元名 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

2 単元の目標

- ・自動車の「しごと」と「つくり」のかかわりに関心をもちながら、進んで読んだり書いたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・3種類の自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、読むことができる。(読むこと)
- ・簡単な組み立てを考え、自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書くことができる。(書くこと)
- ・片仮名で長音や促音を書きあらわすことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

児童が関心を示す物の一つに乗り物がある。本単元では乗り物の中でも特に身近な自動車を取り上げている。「じどう車くらべ」は、自動車の仕組みやはたらきを比べながら説明した文章である。バスや乗用車、トラック、クレーン車を事例として、多くの役割をもつ自動車がそれぞれの「仕事(はたらき)」のために、その「つくり(形態)」になっているのだということ説明をしている。つまり、その「しごと」によって「つくり」が異なり、二つの事柄の因果関係が感じられるような説明のしかたになっている。

これまでの説明的な文章「くちばし」で、くちばしの形がその鳥が食べるえさと関わっていることを学習してきた。「物」は、ほとんどの場合、その「仕事(役割)」に一番ふさわしい「つくり(形)」になっているということは、自動車以外の物を説明する際にも基本である。一つ一つ確実に押さえながら学習することで、物事を関係づけてとらえたり、論理的に考えたりする力を育てることが期待できる単元である。

本単元では、説明文「じどう車くらべ」を読み取り、そこで学んだ文章の形式を生かして、自分でも好きな自動車を説明する文章を書く学習を展開する。自分のお気に入りの自動車の説明文を書く活動をするを意識しながら教材文を読み深めていくことで、「しごと」と「つくり」の因果関係に興味をもって目を向けられるようになることを考える。

4 児童について

初めて出会った説明文「くちばし」で、「問い」と「答え」の説明的な基本的な文型、及び、挿絵と文から説明されている事柄を正確に読み取ることが学習してきた。さらに「みいつけた」では、「問い」と複数個の「答え」で構成された文章を学習した。その際には、問いの文や答えに色分けしながらサイドラインを引いたり、言葉を囲んで内容をとらえられるように学習を支援してきたが、自分一人だけでは大切な文章を正確に見つけられない児童もいた。なかなか読み取れない児童に配慮し、ペアで話し合う時間を設けたり、小グループでお互いの意見を交換し合ったりして自分の考えを確認させていきたい。

音読については、まだ、言葉を固まりでとらえられないために文字の拾い読みになり、たどたどしい読みの児童がいる。練習を繰り返せば、ほとんどの児童はスムーズに読めるようになるので、読みを深めるためにも音読の練習を繰り返させたい。

自動車というのは児童にとって身近で興味のもてる題材であるので、書くことが苦手な児童も意欲的に自動車図鑑作りに取り組めると思われる。

5 指導について

学習指導要領の改訂では、『日常生活に必要とされる対話、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身につけることができるよう、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、解決していく能力の育成』を重視している。この単元では、書くための読む活動が中心となる。従って、基本文型や接続語の役割、構成に着目させながら読んでいく必要がある。ここでは「そのために」という接続語を用いて表現することにより、「しごと」と「つくり」の関連を明確にしている。これまでの教材文には使われていなかったこの接続語を自分の説明文にも使えるように、意識して読ませたい。

児童が、自分たちで「自動車図鑑」を作りたいという目的意識やそのための書き方の工夫を探っていこうという課題意識をもたせながら、学習を進めていきたい。教材文の「読み」から「自動車図鑑を作ろう」の「書く」学習へつなげるために、「はしご車」について、「しごと」と「つくり」の説明を考える活動が入れられている。そこを丁寧に扱うことで、何をどう書けばいいのか理解させ、自動車図鑑を作るときの手がかりになるように進めていきたい。本時では、はしご車の「つくり」を通して「はたらき」に目を向けられるように、付箋を使って情報の整理をしていく。

また、自分で説明文を書くために、図鑑や資料を読んだり、人に聞いたりして情報を集め、その中でも必要な部分を選択する情報を活用する力も高めると考える。児童の興味関心を高めるためにも、視聴覚資料や図書を多く活用する。また、児童の身近な場所に自動車に関する本を集めて手に取れるようにしておく。

児童を引きつけ、授業に引き込んでいくための導入部分を大事にすることで、児童の学習意欲を高めたい。そして、「おもしろそうだ。」「やってみたい。」「考えてみたい。」と思わせる教材提示を工夫する。

それぞれの自動車の特徴を明確につかめるように、その形や機能を「自動車の自慢話」という形でとらえさせていく。そのために、「ぼく読み音読」を取り入れ、擬人化することで理解が浅い子にもイメージをつかみやすくする。

6 指導計画（12時間配当） 本時5 / 12

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価規準
1	学習課題を知り、話の筋をとらえる。	学習の見通しをもち、自分の好きな自動車の宣伝カードを作りたいという意欲をもつことができる。	◎			○	○	自動車にはいろいろな種類があることに興味をもち、意欲をもって、教材文を読むことができる。 (関・意・態)
2 3 4	バスや乗用車、トラック、クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめる。	「しごと」と「つくり」の二つの構成でできていることに気づくことができる。		○	○	◎		「しごと」と「つくり」を示している言葉に注意しながら、読むことができる。 (読む)
5 本時	はしご車の「しごと」と「つくり」を考える。	はしご車の「つくり」に注意してその仕事を考えることができる。	○		◎	○		はしご車について「しごと」と「つくり」に分けて、説明を書くことができる。 (書く)
6 7 8	絵本や図鑑を読み、自動車を選んで調べる。	好きな自動車の絵本や図鑑を読み、「しごと」「つくり」を調べることができる。	◎	○				図鑑を作るために本を選び、進んで調べている。 (関・意・態)
9 10	選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を考えながら、説明する文を書く。	自動車の絵本や図鑑を読み、「しごと」「つくり」を調べ、まとめることができる。	○		◎			好きな自動車の「しごと」「つくり」を書き、接続語「そのために」を使って文章にまとめることができる。 (書く)
11 12	図鑑を完成させて、友達と読み合い、感想を発表し合う。	友達の図鑑を読み、感想を述べることができる。	◎	○				友達の図鑑を読み、感想を述べることができる。 (関・意・態)(読む)

7 本時の目標

- ・はしご車の「しごと」と「つくり」について、短い文でまとめることができる。

8 準備物

ワークシート、はしご車の絵、付箋、バス、トラック、クレーン車、はしご車のお面

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○音読して前時までの学習を振り返る。</p> <p>○「バスやじょうよう車」「トラック」「クレーン車」のそれぞれの「しごと」と「つくり」を確認する。</p> <p>○今日のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はしご車のしごととつくりをせつめいしよう</p> </div> <p>○はしご車の絵について、気づいたつくりの特徴を考えて書く。</p> <p>○気づいた特徴を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長いはしごがついている。 ・赤い非常ランプがある。 ・サイレンを鳴らす装置がある。 ・タイヤが大きい。 ・じょうぶな足がついている。 ・赤い色をしている。 <p>○つくりの特徴からはしご車はどんな仕事をしているか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いところにいる人を助ける。 ・火事の時に仕事をする。 ・急いで、火事の現場に行く。 <p>○はしご車の「しごと」と「つくり」を「そのために」を使ってつなげ、ワークシートにまとめる。</p> <p>○はしご車の「ぼく読み音読」をする。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく読み音読」で、仕事とつくりの関わりについて想起させる。 ・絵を提示し、学習意欲を高める。 ・いろいろな角度から考えられるように隣の人とペアで学習する。 ・気づいたことからどんどん付箋に書き、そのつくりの場所にはらせる。 ・分かりやすいように、出された特徴を場所毎にグループ分けしていく。 ・いくつか挙げた意見を最終的には言葉を選んで二つにまとめていくようにする。 ☆はしご車のしくみと関連づけて、仕事を考えることができたか。 (発表・観察…読む) ・これまで使ってきたフォーマットに当てはめながら、まとめられるようにする。 ☆はしご車の「しごと」と「つくり」について、短い文でまとめることができたか。 (観察・ワークシート…書く) ・次の「自動車図鑑を作ろう」の学習につながるようにする。